ラガノイバリュル氏（Neubauer: Zeitschr. analyt. Chem. 1870, 302）ノ言＝據

錄

抄

千八百九十一九年九月関於ヒドロキシラミンノ安定度及製法

C.A. Lohry de Bruyn: Ber. 27, 1894, 967-971.
東京化學會誌 第五巻

抄

メレントノヒドロキシラミンヲ含有スルコトヲ知リ故ニ遊離ノヒ

ドロキシラミンハ通常ノ低温ヲ於テハ可ナリ安定ナルガ如シ然レ

ア温度ニ於テハ発生シ此變化ハ自身酸化及還元ナルガ如シ即チヒドロキシラミン

シラミンノ一ハ酸素ヲ出シテアメモニアヲ生ス他ハ酸化シテ亜酸化及次亜酸ヲ生ス

硝酸及ヒ次亜硝酸ヲ生ス之ヲアメモニア及他ノヒドロキシラミン

合ス而メ亜硝酸ヒドロキシラミンハ自ヲ分解スルモノナルヘ此ノラスヲ検ス

次亜硝酸ヲ成熟スルコト能ハサルヘクノラスヲ検ス

発生ヲ説明スルニ足ルベシ

多量ノ固體ヒドロキシラミンヲ製スルニ當リ冷圧力ニテメチールアルコール溶液ヲ分於テ蒸縮スルノ

後ヒドロキシラミンノ富ミタル残物ヲ数多く蒸縮瓶ニ分ヲ然レル後此

小量ヲ別々ニ蒸縮スルニ宜シトススレバ大ニ其製出高ヲ増